

慢性痛
急性痛

香曾我部義則先生の今月のカルテ

vol.114

ペインクリニックの現場から

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生と藤井洋泉先生が、痛みの治療や緩和についての情報を届けてくれる「ペインクリニックの現場から」。今回は「骨粗鬆（ししょう）症」から起こる骨折の中でも、最も頻度の高い椎体（ついたい）骨折についての話です。

椎体骨折は、押しつぶされるように骨折が生じるため、圧迫骨折ともいわれます。70歳代前半の25%、80歳以上では40%を超え、70歳以上の半数以上に複数の骨折があるといわれています。

好発部位は胸腰椎移行部（第12胸椎前後）が最も多く、次いで中位胸椎（第7胸椎近部）、腰椎の順に多くなっています。骨折は椎体変形を伴い治療しますが、骨折が多数になると脊髄後窩（せきちゅうこうわん）を圧迫し、後窩が強くなると、さまざまな臓器に問題が起ります。

椎体骨折は単なる骨折ではなく、諸臓器に悪影響をもたらすため、決して予後が良いとはいえません。椎体骨折は、布団を持ち上げたり、洗濯物を干したりする日常の動作でも生じます。転倒のようには限らないので、3割ほどは原因が特定できないとされています。また、痛みを伴わないケースもあり、見逃されることがあります。受傷機転が明らかでないこともあり、初期治療が不十分であったりすると、骨折の遷延治療、偽関節形成により頑固な腰背部痛や遅発性神経障害の出現など、治療に難渋することがあります。

■プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会指導医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属



消化管では胸焼け、胃部不快感、腹部膨満感、食思不振、便秘などの消化器症状、逆流性食道炎などを引き起こし、さらに食道裂孔ヘルニアを伴うと、逆流性食道炎の重症化や難治化をもたらすといわれています。また、骨粗鬆症から起こる高齢者の椎体骨折は、諸臓器に悪影響をもたらすことも

骨粗鬆症から起こる高齢者の椎体骨折は、諸臓器に悪影響をもたらすことも M R I なら骨折初期より診断が可能

お答えは、梶木病院北
区西花尻）の香曾我部先
生です。☎086（29
3333554